



Title	所感
Author(s)	忠見, 進
Citation	makoto. 1977, 20, p. 9-9
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/86166">https://doi.org/10.18910/86166</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 所感

堺市衛生部長

忠

見

進

暑かった夏もようやく終りを告げ、紅葉の季節を迎えようとしております。今年の夏は連日三十六度を越す猛暑で、各地域に多大の影響を及ぼしたと思われまふ。天地異変のつくづくこの地球上においてもヨーロッパでは夏の訪れが少なく、一方アメリカにおいては猛暑の連続で四十度以上も記録し、死者さえだしたほど地域によって様々であります。気候上の異変現象もさることながら今、地球上においては人口問題、人種問題、食糧危機の問題、核の平和利用の問題、公害問題、難病・奇病対策、住宅問題、不況対策、そして今紙面を賑わしている二百カイル問題等、グローバルな視野から対策が注目されております。

一方、ひるがえって本市におきかえましても数多の問題が山積しておりますが衛生行政にたずさわる私としては、これらの問題をひとつ、ひとつ慎重に対処していく所存でございます。しかしながら都市化の波のおし

よせる当市の悩みは人口急増都市共通の幾多の難問題をかえしております。赤字財政下の地方自治体の台所は今や火の車であり、そのもとでこれらの諸問題を遂行することは、非常に厳しい情勢にあります。そうかといつてこれを傍観することは許されるものではありません。苦しい中でも何らかの打開策を講ずるのが我々に課せられた運命と云えましよう。

このような厳しい状況のもとで本市永年の念願でありました（仮称）泉北保健所の建設が進み、昭和五十三年四月開所を目指し、着々準備中でございます。年々人口急増の一途をたどる府下のベッドタウンである泉北ニュータウンは今や人口十一万人を越え、計画人口十八万人に近づきつつあります。地域住民や諸団体の強い要望や陳情等もありまして、本市といたしましては、いち早く住民の健康に対応した新設保健所の建設に取り組み、来春には開設の運びにこぎ

つけております。この泉北ニュータウンに鳳保健所の分室が僅か一ヶ所しかなく、地区住民からのこれが早期建設について強い要望もありましたが、私共衛生部職員一丸となって国や府等に強く働きかけ、やっと実現することになった訳であります。また昨年八月には永年の構想でありました（仮称）地域医療センターが地鎮祭を終え、すでに着工にかかり、年末には完成の運びとなっております。これは現在まで宿院保健所で間借りして行っている休日診療所を充実するため、内科・小児科以外の科目や夜間の急患も診療できるよう計画し、さらに救急医療の情報の収集・市民向けの健康診断、相談等の開催、災害時の患者の収容や公害病患者の見直し検査など総合的な地域医療業務が出来るよう計画しております。これらの施設の設置により本市の衛生行政の機能を一段と充実出来るものと確信する次第でございます。これらの新設

の陰には関係の皆様方の暖かいご助力を賜りましたことにお礼を申し上げます。事業の遂行には断まぬ努力をはかる所存でございます。

さて本市衛生行政を推進していくためには施設の建設もさることながら医療従事者の確保、特に医師、保健婦が著しく不足しております。医師につきましては近畿一円は元より外国医師の招聘も手掛けたこともありますが、全国的な医師不足の中でとりわけ、公務員医師と民間病院・診療所の医師の処遇格差も相俟って、地方自治体における医師確保は至難の現状でございます。また保健婦の不足につきましても他都市と同様、絶対数には及ばないように思われます。一応、基準として人口一万人に一人の保健婦をと念願においておりますが、七十八万人を擁する本市におきましては現在六十三名しかおらず、この対策として各方面に手を尽す一方、各地の保健婦養成所にも出向き、当市の窮状を説明し、確保に努力しております。完成も迫っている新設保健所の運営を考えるにこの充足対策には将来も頭を悩ます問題であります。一方本市内に就業する医師等医療技術者